







小苗代 (伊佐市) 採集瓦 寺師コレクション 黎明館蔵



日本に仏教が伝来してから約150年後の7世紀後半に南九州にも 仏教が伝わってきます。その時期はちょうど古代律令国家の形成 期にあたります。国家による仏教興隆策により全国的に寺院が建 立され、火葬の風習とともに蔵骨器(骨壺)も登場してきます。本 企画展では、仏教が南九州へどのように広まり浸透していくのか を葬送の変化を中心に紹介します。

### 関連イベント 申込詳細は、ホームページまたはチラシをご覧ください。

学芸講座(展示解説講座)「古代南九州における仏教の広がり」 |講師|黎明館主査 竹添 和寿

| 日時 | 11月15日(土) 13:30 ~ 15:00 | 会場 | 黎明館3階 講座室 事前申込制(電子申請または往復ハガキ) 【応募期間:10月16日(木)~10月30日(木)】 講座後に、企画展示室で展示解説を行います(要団体入館料)

## 展示解説

| 日時 | 9月21日(日)、10月5日(日)、10月26日(日)、11月29日(土) 各日とも13:30 ~ 14:10

| 会場 | 黎明館3階 企画展示室 (要入館料、事前申込不要)



[ 県指定文化財 ] 吹上町田尻の金銅菩薩立像 吹上町御観音講(日置市)蔵 黎明館保管 高さ 15.15cm

# 第1章 仏教が広まる以前の墓 一南九州の古墳一 南九州に仏教が伝わってくる以前の、南九州の多様な古墳(前方後円墳・板石積石 棺墓・地下式横穴墓・土坑墓)について、墓制や副葬品などを中心に紹介します。 また、南九州の古墳時代の土器である成川式土器についても紹介します。

# 南九州における仏教と寺院

日本に仏教が伝来し、全国に広がっていく過程を『日本書紀』の記事を中心に、 また南九州における仏教の展開を『続日本紀』などの資料と薩摩国分寺や大隅国 分寺などの瓦とともに紹介します。

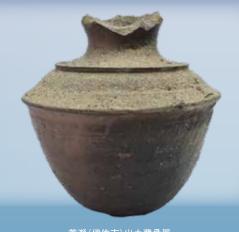


薩摩国分寺跡(薩摩川内市)出土 創建時軒先瓦 薩摩川内市川内歴史資料館蔵

### 南九州における仏教の広がり 第3章 一仏教が広がったあとの葬制一

薩摩国分寺や大隅国分寺以外の古代寺院は明らかになっていませんが、仏教の痕跡 を示すものとして、香炉や多口瓶(仏前に花を供える瓶)、蔵骨器などが発掘されて います。

仏教の痕跡を示す資料について紹介します。



荒瀬(伊佐市)出土蔵骨器 寺師コレクション 黎明館蔵



『三国名勝図会』 寺師コレクション 黎明館蔵

## 第4章 古代の伝承寺院

明治初年の廃仏毀釈によって、薩摩藩内の仏教寺院にあった貴重な 資料は、ことごとく消失してしまい、その痕跡をたどることはできま せん。

しかし、江戸時代後期にまとめられた総合地誌『三国名勝図会』には古 代創建を思わせる寺院の記述があり、その一端を紹介します。